

馬場ひでゆきの活動日誌

No.10

本年もよろしくお願いいたします。元日に発生した能登半島地震で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。2日には日本共産党上越市議員団(橋爪・上野・平良木)とともに被災現場を視察し、5日は県知事の視察に同行しました。被災現場の状況を報告します。

茶屋ヶ原土砂崩れ

地震によって、茶屋ヶ原で土砂崩れが起き、土砂が国道8号線を直撃し、道路が不通になりました。

現在、復旧作業が行われておりますが、今後撤去しなければならぬ土砂が1万5千mもあり、しかも9日夕方の地震の後、斜面に亀裂が確認され、新たに土砂崩れが起きる可能性があり、まだ通行止め解除の見込みは立っていません。



瓦、灯籠の破損、水道管破裂

右下の写真は、高田公園駐車場内にあった大きな石灯籠です。地震によって倒壊しました。瓦の破損、石灯籠、塀の倒壊、水道管が破裂するなどの被害が多数発生しました。屋内でも、壁の破損や戸が開かなくなっているという話が多数寄せられています。

上越市の発表では建物被害は全壊1件、半壊が908件になっ



ています(1月12日11時現在)。

海岸地域の被害

◎直江津港の埠頭では、舗装面にクラックが発生。港の管理者は、「埠頭は埋め立てによってできており、地盤が軟弱だ。空洞ができている可能性もあり、このままでは重機や車両で港湾の荷役作業ができない。そのため、電磁波で地中を調査する作業をしている」と語っていました。



◎関川河口付近では、津波が川を遡上していききました(その状況はテレビでも放映されました)。津波による海水は、堤を超えて近隣の民家(上越市港町)にまで押し寄せました。

◎直江津海水浴場周辺では、津波が浜茶屋の倉庫にまで押し寄

被災後の直江津海水浴場周辺



せて、浜茶屋の建築資材、冷蔵庫などの什器備品を押し流しました。組合の理事長は、「被害は1億円程度になるのでは。保険は、ほとんどの店が夏営業の3カ月のみしか加入していなかったのではないかと話してくれました。」

◎大潟漁港では、津波が船置き場を直撃しました。船は横転、小屋の窓ガラスは割れ、中にあった網はぐちゃぐちゃ、モーターなどが破損し、大きな被害を受けました。

※ ※ ※

地震発生当時、私は中央病院の駐車場にいました。あんなに車が激しく揺れたのを見たのは初めてです。津波が来るなんてことも思っていませんでした。ラジオ放送の「逃げてください」を聞きながら、ひたすら内陸へと車を走らせました。

今回の地震と避難の経験から、いくつかの課題を考えました。次頁を読んでください。2月の県議会の一般質問でも質したいと考えています。



私の推し本その3

杉みき子著 『電柱ものがたり』



道路に沿って並ぶ電柱たちが、人間のように話をするという不思議な物語。電柱の話がわかるのは、山中村の五作じいさん。農家の末っ子で小学校を出て電気工場の見習いになったが、仕事がおもしろく、独学で電気工場の資格をとり、電気会社に雇われて電灯線を引く工事に従事した、歳をとって引退しても、

自分の建てた電柱が大丈夫かどうか心配でたまらない。毎日毎日電柱の様子を見ているうちに電柱と言葉を交わすことができるようになったのです。

ある嵐の日、村の電線が故障します。五作じいさんは、銅網と腰道具を持ち電柱に上りますが、銅網が切れて、五作じいさんは電柱から落下して命を落としました。じいさんの葬列を電柱たちが静かに見守ります。

初めて読んだのは小学校の時。仕事に殉じた五作じいさんをカッコいいと思いました。この作品は、「杉みき子選集」（新潟日報事業社）第1巻の一番目に収められています。杉さんは、巻末で、お父様も電気技師だったことを紹介し、この作品には愛着があると述べられています。

他の場所でも地震などで寸断される恐れのある道路がないかどうか確認してみる必要があるはずです。土砂崩れだけでなく、道路がクラックして車両が通れなくなることも当然考えられます。道路が寸断すれば速やかに安全に避難することも救助することもできません。迂回路のない地

今回の茶屋ヶ原付近は、崖が多く、その崖と海岸との間を縫うようにして国道8号線が通っています。このような場所は、能生や糸魚川、原発のある柏崎の米山付近にもあります。

土砂崩れの直撃を受けた国道8号線は、原発事故が発生した場合、柏崎から上越・糸魚川に向けての避難道路になりますし、人命救助や物資輸送を行う緊急指定道路としても予定されています。

●避難経路の確保は？
証することが必要です。

今回の地震で真っ先に考えたことは、「柏崎刈羽原発は大丈夫か？」ということでした。今のところ、異常は見つかっていないという報道ですが、私たちは、原発の過酷事故が発生する可能性があることを踏まえて、あらためて避難対策を検討することが必要です。

県政の論点

この度の地震による被災状況や避難行動から見えてきた課題

域についても確認し、複数の避難経路を確保する必要があります。●「屋内退避」は現実的ではない
国の作成した「原子力災害対策指針」では、原発中心地から5〜30キロ圏内の住民は、原発

事故の際、自宅など建物内にとどまる屋内退避を原則とすることを定めています。しかし、過去の原発事故の多くは地震をきっかけに発生しました。地震は津波や火災を引き起こします。そのなれば、住民は安全な場所を求めて少しでも遠くに避難しようと思いません。「屋内退避」が前提の避難対策は、却って住民に混乱をもたらすものと思いません。

●新たな地震の発生は？
1月9日には、佐渡を震源地とする地震（上越市では震度3を観測）も発生しました。佐渡

周辺やその北方にも海底活断層があると指摘されています。また、柏崎刈羽原発の敷地直下には、数多くの断層があります。新たな大地震が発生する可能性があるのかどうか、科学的な調査が不可欠です。

●サイレンのアナウンス
上越市が行ったサイレンの避難指示のアナウンスの音が聞き取れず、どうしてよいのか迷ってしまったという声を複数聞きました。

有線放送の利用が少ない地域ではアナウンスの情報に頼ることになります。商店街や学校などの放送システムと連携するなど迅速にしっかりと避難誘導できる体制を再度検討する必要があります。●高齢者、外国人への避難誘導
高齢者の方を自宅から外に連れ出すの取組が課題です。今回の地震避難の際に、福祉・医療施設で実際の避難の取組につき聞き取りをして、今後に活かすことが重要です。また、上越市内には、多くの外国人の方々が居住し、地元の企業で働いています。

私の知人で長年上越市で生活をしてきた方にはよれば、多くの外国人がサイレンで話されている日本語の内容がわからない、避難所に行っても、応対する日本人との会話ができず、どうしているのかわからなくて困惑していたとのことでした。今後は避難について外国語表記したものや準備する、雇い先の企業も、災害時の対応の周知を図るなどの対策が必要です。

発行責任者：馬場ひでゆき事務所
住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号
ダイアパレス高田式番館3階
電話 025-546-7110
ファックス 025-546-7666
メール kengi-bahahideyuki@wind.ocn.ne.jp